

喜多川と 栃木の狂歌磨

2025.10.10(金) - 12.14(日)

◎前期／10月10日(金)～11月9日(日) ◎後期／11月13日(木)～12月14日(日)

※前期・後期の各期内に、一部展示替えや版本等の場面替えがございます。

〔開館時間〕午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

〔休館日〕月曜日(祝日の場合は開館)、10月14日、11月4日、11日、12日、25日

〔観覧料〕一般/大・高生 800(640)円／中学生以下無料

*身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介助者1名は無料

* ()内は20名以上の団体料金

*「家庭の日」の第3日曜日(10月19日、11月16日)は中学生以下の子どもの同伴者2名まで観覧無料。
11月3日(月・祝)は観覧無料。

〔主催〕栃木市教育委員会、栃木市立美術館

〔後援〕朝日新聞宇都宮総局、産経新聞社宇都宮支局、下野新聞社、東京新聞宇都宮支局、

毎日新聞宇都宮支局、読売新聞宇都宮支局、NHK宇都宮放送局、

株式会社エフエム栃木、ケーブルテレビ栃木、株式会社とちぎテレビ、株式会社栃木放送

〔栃木市立美術館・文学館企業等サポーター〕滝沢ハム株式会社、栃木信用金庫、

株式会社ホンダカーズ栃木中央、株式会社呉光製作所、

トヨタホーム株式会社栃木事業所、ケーブルテレビ株式会社

(口数、登録日順、令和7年9月1日現在)

図版上から、全て喜多川歌麿画／《両国橋 橋上の女たち》(部分)個人蔵、《潮干の都登》(部分)公文教育研究会蔵、《高名美人見立忠臣蔵 十二枚つづき十一段》(部分)個人蔵、《鍾馗図》(部分)栃木市立美術館蔵、《三福神の相撲図》栃木市立美術館蔵、《題名不詳(鮑取り)》(部分)藤沢市蔵、《狂歌入風俗十二月 四月》(部分)個人蔵、《青楼三美人》(部分)個人蔵、《女達磨図》(部分)栃木市立美術館蔵、《狂歌入風俗十二月 七月》(部分)公文教育研究会蔵、《狂歌入風俗十二月 十一月》(部分)個人蔵

栃木市立美術館

Tochigi City Art Museum

www.city.tochigi.lg.jp/site/museum-tcam/

〒328-0016 栃木県栃木市入舟町7-26 Tel: 0282-25-5300

歌麿の初公開作品!



歌麿と栃木って、どんな関係?



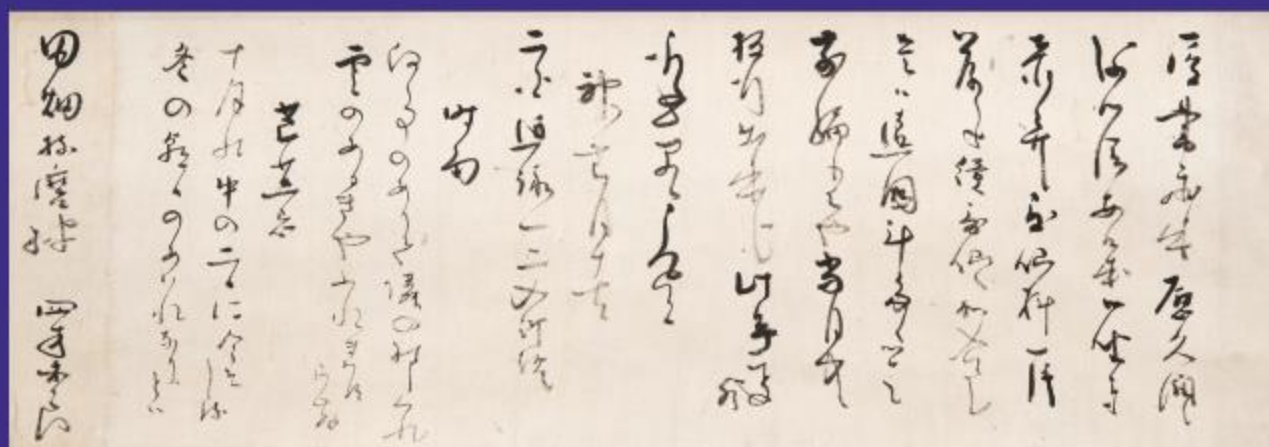
1

喜多川歌麿(?~1806)は江戸時代後期に活躍した浮世絵師です。特に美人画を得意としており、女性の機微を捉え繊細に表現された歌麿の浮世絵は、時代を越えて多くの人の心を惹き付けました。

一方で歌麿は名だたる狂歌師と繋がりがあり、豪華な狂歌絵本の絵を担当したり、狂歌入りの浮世絵版面を手掛けたりしました。

江戸時代、特に天明期(1781~89)に流行した文芸である狂歌は、五・七・五・七・七の和歌の形式をとっておかしみや風刺を込めて詠むもので、江戸を中心として地方にも広がります。栃木でも同様に狂歌が流行していたことがわかっており、その流行をけん引したうちの一人が豪商の通用亭徳成(善野喜兵衛、通称 釜喜)です。徳成は歌麿と交流があり、浮世絵の中にその名が記されることもありましたが、更に、徳成の叔父である善野伊兵衛(通称 釜伊)は、歌麿の大作、肉筆画三部作《深川の雪》《品川の月》《吉原の花》の依頼者であるといわれています。

歌麿の画業や同時代の絵師たちによる華やかな浮世絵版面と肉筆画、そして栃木や各地方の狂歌やその発展といった、身近な知と美をたくましく食欲に楽しんだ江戸庶民の文化をご紹介します。



狂歌の大家・大田南畝も栃木ゆかり!

2



3



4



5



6



7

関連イベント

学芸員によるギャラリートーク

日時=10月18日(土)、11月30日(日)
ともに午後2時~1時間程度(予定)

対象=どなたでも
参加費=無料(要当日の企画展観覧券)
集合場所=展示室A

学芸員によるキッズギャラリートーク

日時=10月19日(日) 午後2時~2時30分
対象=小学生

参加費=無料
集合場所=展示室A

講演会「喜多川歌麿と栃木」

歌麿と栃木のゆかり、歌麿の浮世絵についてご講演いただきます。

講師=浅野秀剛氏

(大和文華館 館長、あべのハルカス美術館 館長)

日時=11月1日(土) 午後2時~3時30分

対象=どなたでも(小学生以下は保護者の同伴必須)

定員=100名(要事前申込、先着順)

参加費=無料

場所=きららの杜とちぎ蔵の街楽習館

(栃本市市民交流センター)大交流室

申込開始=9月20日(土) 午前10時~

申込方法=電話

講演会「天明狂歌の大流行と栃木の狂歌師」

天明時代に大流行した狂歌と、栃木の狂歌師についてご講演いただきます。

講師=小林ふみ子氏(法政大学 教授)

日時=11月23日(日・祝) 午後2時~3時30分

対象=どなたでも(小学生以下は保護者の同伴必須)

定員=100名(要事前申込、先着順)

参加費=無料

場所=きららの杜とちぎ蔵の街楽習館

(栃本市市民交流センター)大交流室

申込開始=9月20日(土) 午前10時~

申込方法=電話

ワークショップ「浮世絵摺り体験!」

日時=①11月2日(日)
②11月30日(日)
③12月6日(土)
いずれも午前10時~12時

場所=多目的室(つなてみち)

対象=①③高校生以上

②小学校4年生~中学生とその保護者

定員=①③各5名

②5組10名(要事前申込、先着順)

材料費=1人300円(紙代等)

申込開始日=10月4日(土) 午前10時~

申込方法=電話

*展示室にて一部作品の鑑賞を含むため、要企画展観覧券

オリジナル消しゴムはんこづくり

デザインカッターを使って消しゴムでオリジナルのはんこを作ります。

講師=消しゴムはんこ屋おさと氏

日時=10月25日(土) 午後1時30分~3時30分

場所=多目的室(つなてみち)

対象=小学校4年生以上

定員=12名(要事前申込、先着順)

材料費=1人500円

申込開始日=10月4日(土) 午前10時~

申込方法=電話

*展示室にて一部作品の鑑賞を含むため、要企画展観覧券

歌麿展×市内「雪月花ブランド」コラボ!

栃本市立美術館の企画展「喜多川歌麿と栃木の狂歌」と栃木市内で展開されている「雪月花ブランド」がコラボ!「雪月花ブランド」のグッズあるいは飲食物を購入で、特製グッズをプレゼント!

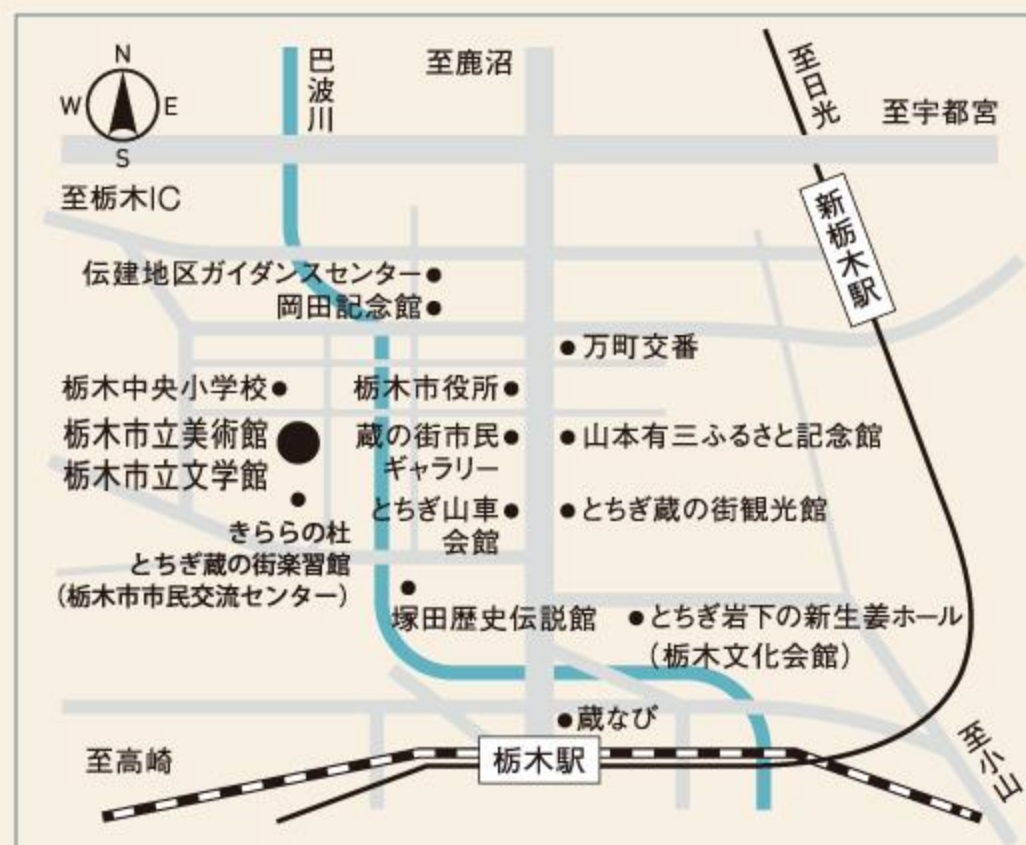
期間=「喜多川歌麿と栃木の狂歌」展開催期間中

※定休日や開店時間は各店舗による

◎場所=市内協力店舗 ◎特製グッズ配付場所=各施設
「雪月花ブランド」詳細は歌麿協議会公式サイト、本コラボについては栃本市立美術館・文学館の公式サイトでご確認ください。

- 1 喜多川歌麿《江戸の園 花合 藝國の花》個人蔵 後期展示
- 2 大田南畝《四方赤良書状》個人蔵 通期展示
- 3 東洲斎写楽《二世市川門之助 伊達との与作》個人蔵 後期展示
- 4 北尾政演《吉原傾城新美人合自筆鏡 瀬川 松人》個人蔵 前期展示
- 5 喜多川歌麿《限取する童子と美人図》個人蔵 後期展示
- 6 喜多川歌麿《青楼十二時 亥ノ刻》個人蔵 前期展示
- 7 喜多川歌麿《風流四季の遊 弥生の江之島詣》藤沢市蔵 前期展示

喜多川歌麿《狂歌入風俗十二月 十一月》(部分) 個人蔵、喜多川歌麿《狂歌入風俗十二月 十月》(部分) 個人蔵、《題名不詳(鮑取り)》(部分) 藤沢市蔵



交通アクセス

【電車】栃木駅(JR両毛線、東武日光線)下車、北口から徒歩約20分
【バス】栃木駅北口からふれあいバス「市街地循環線(西回り)」等で「藤沼酒店前」下車、徒歩約1分
【車】東北自動車道、栃木ICから約10分

栃本市立美術館
Tochigi City Art Museum

www.city.tochigi.lg.jp/site/museum-tcam/

〒328-0016 栃木県栃木市入舟町7-26 Tel : 0282-25-5300



X(Twitter):
@tcam_tclm



Facebook



Instagram:
@tcam_tclm